

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語A・B、数学A・B、生徒質問紙)

A:主として「知識」に関する問題 B:主として「活用」に関する問題

4 本校の参加状況

① 国語A	135人	国語B	135人
② 数学A	134人	数学B	134人

5 留意事項

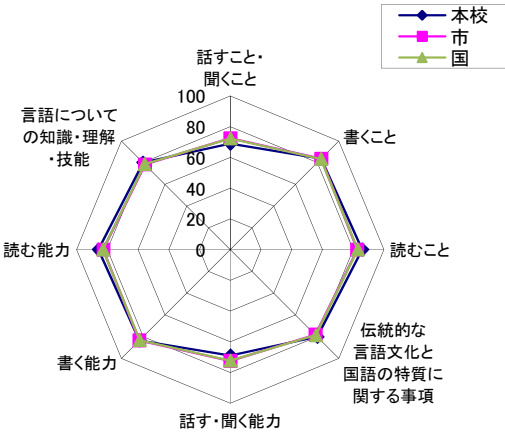
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

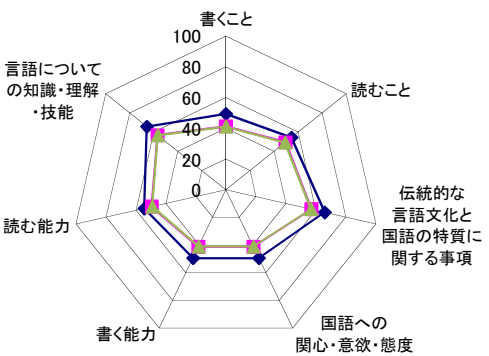
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	68.9	72.5	72.3
	書くこと	83.6	83.7	83.4
	読むこと	85.8	82.6	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.2	78.4	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	68.9	72.5	72.3
	書く能力	83.6	83.7	83.4
	読む能力	85.8	82.6	82.9
	言語についての知識・理解・技能	80.2	78.4	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	49.4	41.3	41.0
	読むこと	54.5	49.6	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.9	57.0	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	49.4	41.3	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	49.4	41.3	41.0
	読む能力	54.5	49.6	49.2
	言語についての知識・理解・技能	65.9	57.0	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」以上の3つの質問に対する回答の肯定的割合（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）は、すべて市の平均を上回っており良好な状況である。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・国語A【主に知識】 ○「話し合いの方向性を捉えて、司会の役割を果たす」については、市の正答率と同程度であった。 話し合い全体の、より良い方向性について考えながら聞くことに関しては、おおむねできると考える。 ●以下の3点で、市の正答率と比較して、3.6%低い。 ・「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」「必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す」「二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する」以上の3点において、正答率が低かった。	・左記の3点ともに、選択式の解答形式であり、場面設定を読み取り、その状況をイメージし把握した上で解答することが必要とされる問題であった。今後、聞き取りの授業を行う際に、必要に応じた内容のメモの取り方や意見と根拠の聞き取り方を意図的に行っていく。
書くこと	・国語A【主に知識】＝市の正答率と同程度である。 ○「主語を置き換えて、適切に書き換える」においては、市の正答率と比較して4%高い。 ●「語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える」においては、市の正答率と比較して6%低い。 ・国語B【主に活用】＝市の正答率と比較して8%高い。 ○「文章の構成や表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えを書く」において市正答率と比較して9%高い。	・「文章の構成や表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えを書く」において市正答率と比較して9%高い結果であったが、「文章の構成や表現の仕方」また「自分の意見・主張を支える適切な根拠の選択の仕方」については、まだ不十分である生徒も見受けられる。 ・引き続き小説文におけるテーマや説明的文章における筆者の主張に対する自分の考えを表現する際に、構成や表現の仕方、根拠の挙げ方について指導を継続する。

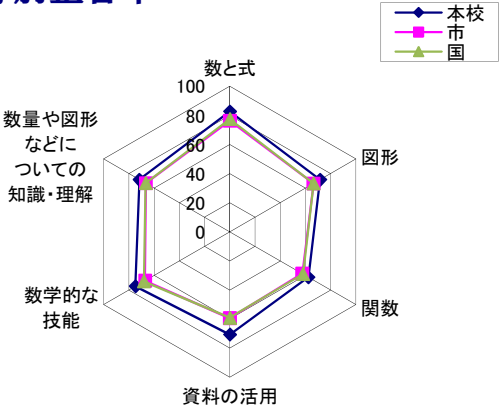
読むこと	・国語A【主に知識】＝市の正答率と比較して3％高い。 ○特に「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」では、12％高い。 ・国語B【主に活用】＝市の正答率と比較して6％高い。 ○「登場人物の心情や言動からの意味の読み取り」と「目的に応じて必要な情報を読み取る」において、市と比較して正答率が高い。	・「登場人物の言動や情景描写からの意味の読み取り」と「筆者の意見・主張とその根拠の読み取り」において、授業での継続指導を行う。また、グループ活動を活用し様々な考え方を交流させられるよう取り組んでいく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・国語A【主に知識】＝市の正答率と比較して2％高い。 ・国語B【主に活用】＝市の正答率と比較して9％高い。 ○「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」や「古文と訳文を対応させて内容を捉える」において市と比較して正答率が高い。	・現在、毎時間漢字テストを行っている。その中で、漢字の意味や成り立ち、言葉の意味等を織り交ぜながら、漢字に対する抵抗感を無くし語彙力の向上を図りたい。

宇都宮市立一条中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

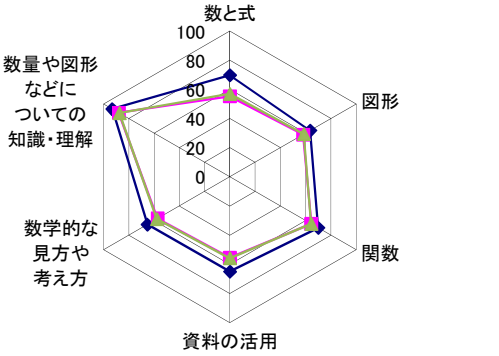
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	82.6	76.3	77.4
	図形	71.6	66.4	66.4
	関数	62.3	57.5	58.0
	資料の活用	70.7	59.5	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	75.0	67.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	71.8	66.7	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	69.7	55.3	56.9
	図形	63.6	58.1	58.6
	関数	69.9	64.5	64.4
	資料の活用	65.0	55.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	65.3	57.3	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	93.2	88.0	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学ができるようになりたいと思いますか」「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」などの質問に対しては肯定的割合が国、県の平均を上回っており、意識の高さを感じられる。
●「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」「解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたか、最後まで解答を書くことと努力しましたか」などの質問に対する肯定的割合は県の平均と同程度にとどまり、意識の高さに比べて具体的な取り組みが不十分であることがうかがえる。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・数学A【主として知識】 ○市の正答率を6.3ポイント上回っており、良好である。 ●一元一次方程式、連立二元一次方程式を解く問題において、正答率が60%台と低い。 ・数学B【主として活用】 ○市の正答率を14.4ポイント上回っており、良好である。 ●整数の性質に関する命題が偽であることを反例をもって示す問題において、正答率が50%台と低い。	・一次方程式の解法は等式の性質に基づいていることを再確認させ、分数や小数に対しても適切な処理が行えるようにしたい。また、計算結果が解であるかどうか代入によって吟味することを徹底させたい。
図形	・数学A【主として知識】 ○市の正答率を5.2ポイント上回っており、良好である。 ●四角形の回転移動で対応する頂点を答える問題において、正答率が50%未満と低い。 ・数学B【主として活用】 ○市の正答率を5.5ポイント上回っており、良好である。 ●条件をもとに図をかきかえて角の大きさを求める問題において、正答率が20%台と低い。	・条件に合わせて図形をかくことを習慣化させ、図形から得られる情報を正しく読み取ることで問題解決を図れるようにしたい。
関数	・数学A【主として知識】 ○市の正答率を4.8ポイント上回っており、良好である。 ●関数の特徴を表から見いだす問題において、正答率が60%未満と低い。 ・数学B【主として活用】 ○市の正答率を5.4ポイント上回っており、良好である。 ●速さ・道のり・時間に関する問題で、条件を変更したときのグラフのかき換え等が正答率30%未満と低い。	・中学数学では表の扱いがグラフや式を考えるための補助的役割にとどまることが多い。表のみを用いた関数の学習を意図的に行うなどして、表の理解を深めさせたい。
資料の活用	・数学A【主として知識】 ○市の正答率を11.2ポイント上回っており、良好である。 ●相対度数や中央値に関する問題の正答率が60%未満と低い。 ・数学B【主として活用】 ○市の正答率を9.5ポイント上回っており、良好である。 ●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明する問題において、正答率が40%未満と低い。	・相対度数や中央値、最頻値等の用語を正しく理解させ、具体的な資料に対して適確に用いることができるようにしたい。

宇都宮市立一条中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

＜学校や家庭での学習について＞

○「本を読んだり、借りたりするために図書館にどれくらい行くか」という問いに対して「行かない」と回答した割合は、全国平均より20.6ポイント少なく、県平均より16.9ポイント少ない。これは学区内に市立図書館があり、位置的に恵まれている他、朝の読書を始めとして、学校の図書館が様々な活動を行い、図書館を魅力ある場所に行っている成果と思われる。今後も生徒の多様な興味や関心に応じた図書の精選や読書を苦手とする生徒にも魅力のある図書館作りをしていきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思うか」という問いに対し、「そう思う」と回答した割合は、全国平均を6.4ポイント上回っている。また、「学級皆で協力して何かをやり遂げて嬉しかったことがあるか」という問いに対し、「ある」と回答した割合は、全国平均を6.9ポイント上回っている。今後も、個々の生徒が級友と友好的な関係を保ちながら、自分の個性を発揮できる学級や学校作りを目指していきたい。

●「友達の前で自分の考えを発表するのは得意か」という問いに対し、「当てはまる」と回答した割合は、全国平均を2.2ポイント下回った。学校生活の中で自分の考えを発表する場を多く設けて、友達の前で話すことに慣れさせることが必要である。各教科の活動の中に意識的に発表の場面を設定していきたい。

＜毎日の生活について＞

○「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」という問いに対し、「当てはまる」と回答した生徒は全国平均を12.4ポイント上回っている。また、「自分にはよいところがあると思うか」という問いに対し、「当てはまる」と回答した割合は、全国平均を8.8ポイント、また県平均を5.5ポイント上回っていることから、成功体験が多く、まわりから認められたいすることで、自分自身に自信をもっていることがうかがえる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強しているか」という問いに対し「当てはまる」と回答した生徒は全国平均より、1.7ポイント、県平均より2.4ポイント下回っている。与えられた宿題や課題でなく、学習の結果や、普段の授業を受けた後、自分が課題とする学習内容を自分で考え、計画していくこと苦手なのではないかと思われる。学習時間は多いが、予習や復習を自主的に行っている割合は低い。学習計画表などを利用して、自分の学習を自分で考えるきっかけとし、自ら計画し実行する力をつけさせたい。

●「将来の目標を持っているか」という問いに対し、「持っている」と回答した割合は、全国の平均を2.4ポイント下回った。また県平均を5.9ポイント下回った。漠然とした、将来のために学習している生徒は多い。自分は将来自分のこの力を利用して仕事をしよう、等の自己を理解する場を作り、与えることで、将来の目標をより具体的なものにさせ、その目標の達成のための学習に取り組ませていきたい。